SMOKERS'STYLE COMPETITION 2010 テーマ座談会

古谷誠章

ふるや・のぶあき
（審査委員長）1955年生まれ／1978年早稲田大学理工学部建築学科卒業／1980年同大学大学院修士課程修了／1994年八木佐千子と共同でNASCA設立／現在，早稲田大学教授

六鹿正治

ろくしか・まさはる
1948年生まれ／1971年東京大学工学部建築学科卒業／1973年同大学大学院修士課程修了／1978年～日本設計／2006年4月～同社代表取締役社長

妹島和世

せじま・かずよ
1956年生まれ／1979年日本女子大学家政学部住居学科卒業／1981年同大学大学院修了／1987年妹島和世建築設計事務所設立／1995年～西沢立衛とSANAA設立／現在，慶應義塾大学教授

佐藤英治

さとう・えいじ
1936年生まれ／1963年早稲田大学理工学部建築学科卒業／1985年イーエスアソシエイツ設立

西沢大良

にしざわ・たいら
1964年生まれ／1987年東京工業大学工学部建築学科卒業／1993年西沢大良建築設計事務所設立／現在，東京理科大学，東京藝術大学他 非常勤講師

小泉光臣

こいずみ・みつおみ
1957年生まれ／1981年日本専売公社入社／2001年本社経営企画部長／2003年執行役員 人事労働グループリーダー／2004年執行役員 たばこ事業本部事業企画室長／2006年常務執行役員 たばこ事業本部事業企画室長／2007年取締役 常務執行役員 たばこ事業本部マーケティング&セールス責任者／2009年代表取締役副社長 たばこ事業本部長，現在に至る

―― 2010年のSMOKERS' STYLE COMPETITIONでは，例年のようにアイデアを募る部門と，実現した事例を募る作品例部門の2部門で作品を募集します．

アイデアを募る部門では，実現も視野に入れたコンペになることから，プロポーザル部門として具体的な場所を想定し，1次審査では幅広いアイデアを求めます．具体的な敷地として，都心に建つオフィスビルの1階のカフェが想定されています（応募要項33頁参照）．敷地周辺はカフェが少なく，オフィスビルで働く人だけではなく，街を行き来する人たちも利用できる場所への提案が求められます．そういった場所において，たばこを吸う人と吸わない人が同じ空間を共有できるカフェのあり方を募集します．

今年のテーマ会議では，ご事情により日本たばこ産業副社長の小泉光臣さんと妹島和世さん，佐藤英治さんがご欠席となりました．皆様には今回のコンペについて事前にご説明し，コメントをいただいています（下記参照）．

今日のテーマ会議は，日本たばこ産業からは執行役員の山下和人様にご参加をいただきました．

では，今年のコンペのテーマについて話を進めさせていただきます．

働く人のリフレッシュ

古谷　今回はオフィスビルの，しかも道路に面した1階部分にあるカフェが想定敷地ということなので，今までのコンペでもテーマになってきた「パブリックスペースでの分煙」と，このオフィスを使う人たちが必要とする「コーヒーが飲める場所」としての分煙のあり方が求められると思います．想定する敷地の特徴としてはオフィス街に位置しているので，「オフィス街のリフレッシュメントスポット」とか「オフィス街のリフレッシュポイントにおける分煙」といったテーマがよいのではないかと思います．

オフィス街であることを考えると，行き来する人たちもワーカーが多いと考えられるし，仕事の合間にリフレッシュする場所への提案とも考えられるので，「オフィス街のリフレッシュスタイル――いかに煙を分けるか」もどうでしょうか．

六鹿　そうですね．「リフレッシュ」というキーワードはよいと思います．

今，私たちが計画しているものを含め，新築のオフィスビルでは，基準階にリフレッシュコーナーがどんどんつくられている印象を持ちます．それだけ，働く場所がただ単純に仕事だけをすればよいという意識ではなくなってきているのだと思います．そういう意味も含めて，オフィスで働く人も，たまたまそこを通りかかるワーカーもリフレッシュできる場所を1階のパブリックスペースにつくるのは面白いと思います．

西沢　テーマにオフィス街の「街」という言葉が入っていることが重要ですね．街が入っていることで，場所としてはプライベートですが，パブリックでもあるという意味合いがより強調されると思うし，たくさんの人が行き来する場所をイメージさせることができると思います．

山下　私たちの感覚としては，オフィスビルの1階に設けられるコーヒーが飲める場所は，ビジネスミーティングで集まる，つまり仕事をする場所といったイメージがあるのですが，どうでしょうか？　リフレッシュすることが主な目的というよりは，そこへ出向いて，打ち合わせをする場所だという印象がとても強いです．これは会社や人によってさまざまな考え方があると思いますが……．

また，私が実際にこういったオフィスに入っているカフェを使う機会としては，アポイントメントよりも10分以上早く着いてしまって，約束の時間がくるまで，コーヒーを飲みながらたばこを吸ったりする時などでしょうか．

お昼休みなどは，明らかにリフレッシュするためにカフェを利用する人も多いと思いますが，街中のカフェよりもずっと，コーヒーを飲むためだけにその場所に来る人は少ないのではないかと思います．

そう考えると，本当にリフレッシュするための場所となり得るのかなという疑問が湧いてしまうのですが．

古谷　そうですね．今ではたばこを吸いながら飲食したり，仕事をしたりでき

テーマ会議にご参加いただけなかった審査員の皆様より

妹島和世

街の中では，だんだんたばこを吸える場所が少なくなってきているのが現状です．吸えるとしても，街の隅っこに灰皿が置いてあるような状態だったりして，たばこを吸う人は灰皿の回りに集まって吸っています．そのため煙もその場所に集まってしまうし，これは街の風景としてはどうかなと疑問に思います．

特に，今回のコンペの想定敷地のようなオフィス街においては，オフィスの中では当然たばこを吸うことができません．最近の大規模なオフィスビルでは，エントランスホールの中に喫煙スペースが用意されていたりしますが，そのビルに用事がある人でないと非常に入りづらい．

ですので，オフィスビルの足下にこういったカフェがあったら，私としてはたいへん嬉しい．街を歩いている人が眺めても，たばこを吸っている人のいる場所が，都市の中でもう少しきれいに見えてくるような気がします．

昔，街には，あちこちに小さなたばこ屋さんがあって，そこには看板娘がいましたよね．そういうたばこ屋さんが街の中にあったように，今回の課題のような喫煙スペースが，街のいろいろなところにあったらいいなあと思います．空間の大きさは小さくてもよいけど，もし可能だったら，少しゆとりがある時は大きい方がいいですね．十分に大きければ今イメージする喫煙室と違った空間になるでしょう．そしてそこに行くとたばこが吸えて，そこで人と会って話もできるぐらいの快適な空間であれば，みんな待ち合わせ場所にも使うのではないかと思います．

（2010年9月8日，SANAAにて）

佐藤英治

今回のコンペは，今までよりずっと制約が少ないぶん，ハードルは高くなるのではないかと思います．カフェを敷地とした2007年のコンペは，囲われた空間の中での分煙を考えることがテーマでしたが，今年は半屋外スペースも含めてプランニングすることも必要になると思いますので，内部空間だけ考えればよいということにはならないと思うからです．

設備的な側面から考えると，天井高を高く設定できそうな点については有効に使うべきだと思います．空間の高さの中で人のいる領域を考慮して煙をある程度処理することは可能かもしれません．

しかし，人の行き来がありそうな場所で，視線も集まるように思うので，機械を持ち込み，設備的な提案をする場合はきちっと納めないといけなくなるでしょう．場所としての特徴をどう考えるかも応募者の想像力にかかっていると思いますし，それによってずいぶん求められるものも変わってくる気がします．

2009年のコンペ（自由が丘グリーンストリート）がそうだったように，自由度があるとはいえ，できればあまり設備機械的な側面に頼るのではなく，アーキテクトが考える設備，つまりファンを使わない，もし使うにしても，空間と一体となった解決が図られていることを期待したいと思います．

（2010年8月25日，新建築社にて）

小泉光臣

今回設定された敷地は，オフィス街の一角に建つ規模の大きなビルにあり，かつ1階の道路に面した場所ですね．そのため，ビル内部の人たちだけではなく，さまざまな人が行き来するだろうと想像できます．もしこれがオフィス内部での分煙空間を考える敷地設定だったら，内部コミュニケーションだけを考えるアイデアになったのではないかと思いますが，今回はそのビルとは関係のない，街を行き来する人も利用する場所になりますから，ビルを利用する人，そうではない人をどう位置付けるのか，その中で分煙空間をどうつくるのかがポイントになるのかなと思っています．

私は設計者ではありませんが，分煙空間をつくるという単純な与件だけではなく，複数の要素を意識しながら提案を考えるのはチャレンジングで面白いのではないでしょうか．応募していただく方の想像力を喚起する敷地設定ではないかと思います．

それからもちろん，カフェという空間ですから，そこでサーブする人たちのことも考える必要があると思います．単純に分煙のことばかりを考えて，本来はくつろげる場所であり，ホスピタリティのあるサービスを提供できる場が損なわれるようなことであってはいけないでしょう．これもひとつの与件となります．

前回のコンペ（自由が丘グリーンストリート）は完全なオープンスペースでしたので，空気の流れや，居場所の高さの違いを使ったアイデアが多く見受けられました．しかし今回は完全にひとつの空間をつくるアイデアが求められます．そうすると，ある程度機械や設備の力を借りる部分が出てくるでしょうから，それらを空間と合わせてどう提案するのかも求められそうですね．応募される方が，今回の敷地に対してどのような解決策を提案してくださるのか非常に楽しみです．多くのご応募を期待しています．

（2010年8月31日，日本たばこ産業にて）

るスペースは極端に減っていますから，たばこを吸いながら仕事もできると考えると，ワーカーにとっては希少な場所となり得ますね．リフレッシュと同時に，たばこを吸いながら仕事ができる場所だと捉える見方もあるのかもしれませんね．

六鹿　カフェをつくることを想定した敷地が，完全に囲われた，建物内部の大きなエントランスホールに位置しているとしたら，オフィスビルには用事がない，街行く人たちにはちょっと入りにくいでしょうね．でもここはそうではなくて，半屋外スペースで，かつ貫通道路にも面しているから，よりパブリックな場所として認識されるように思います．

西沢　僕は，テーマとタイトルは分かりやすい方がよいと思うので，「オフィス（仕事）」と「リフレッシュ」という言葉が両方入っているのがよいのではないかと思います．ただ，このテーマを解説する主旨文の中では，リフレッシュだけではなくて，仕事のアポイントメントで使われることや，打ち合わせ場所として使われること，あるいはちょっとしたオフィスワークをする場所にもなることなどを説明しておくとよいと思います．さまざまな人がさまざまな目的のためにここを訪れるという意味で，六鹿さんがおっしゃっていたように，半屋外のピロティに建てられることも重要になってくると思います．

1次審査の段階では，より幅広いアイデアが求められますから，まずは応募者がこの場所をどう設定するかもポイントのひとつになるのではないでしょうか．もちろん，ある程度の情報は応募要項で説明がなされると思いますが，どんな人たちがどんなふうに使うことを想定するのかということも，応募者の方々が提案してよいのではないかと思います．

――　では，今回のテーマは「オフィス街のリフレッシュスタイル――いかに煙を分けるか」でよろしいでしょうか．

想定されるこの場所の設定については主旨文を参照していただき，応募者それぞれに考えていただきたいと思います．

テーマが決まったところで，今度は審査委員の方々が，今回の敷地においてどんな提案を期待されるかについてうかがいます．みなさんがイメージすることで結構ですので，今回の敷地や条件においての分煙のあり方やカフェとしての可能性についてお聞かせください．

さまざまな選択ができるカフェ

古谷　今回のテーマで特徴的なのは，今までの「オフィスビル」というビルディングタイプに，見直しを図っている点だと思います．オフィスビルとは，今までは働く人の働くための空間でしたが，街の中でどのように周りの人との繋がりを持つことができるのか．あるいは，建物近辺を行き交う人に対して，街に参加しているオフィスビルの足元ではどのような貢献ができるかを考えるきっかけになるからです．

オフィスが街から切り離された時代から，より街に溶け出すようなものに生まれ変わろうとしている．今回はそういうテーマも同時に包含していると考えるべきだと思います．

オフィス1階はエントランスのためだけにあるのではなく，公共の空間であると考えるところが今回のテーマの面白いところでしょう．

ここのカフェについても，煙は分けているけれど，人は気持ちよく交流することができる．そんな場所を模索していただけるとよいと思います．煙をどう扱うかを含めて，この7mの高さを持つ大きなピロティ空間は，かなりの自由度を持って活かされるでしょう．カフェはエントランスホールに位置するわけではないので，ピロティ空間にひとつの建築をつくると考えることができます．

六鹿　今回想定されているカフェがつくられるピロティスペースは，必ずしも典型的なオフィスの街への接し方，着地の仕方ではないですよね．

こうしたピロティ形式がとても流行った時代もあったけど，今ではオフィスビルにピロティを取っているものはあまりありません．そういう意味でオフィスビルとしては少し特殊な建ち方かもしれませんが，そのスペースを有効に利用することで，さまざまな工夫が考えられますし，半屋外にスペースを入れ込むことができるからこその提案が出てくる可能性があります．

昔は街の中にあるカフェ，特にオフィス街にあるカフェでは，分煙などされていませんでした．たばこが吸えることが前提になっている場所だったんです．これらは日本系のカフェといったらよいでしょうか．ところが，アメリカ系のカフェ（スターバックスやタリーズなど）が参入してきて，空間を分けて分煙するスタイルが取られるようになりました．空間で分けない場合は，室内が禁煙で屋外が喫煙というはっきりした分け方をします．

このように場所を分けるかたちでの分煙スタイルでは，建築が提案できる余地がないくらいに，人を分けることで煙も分かれるという方法にしか行き着きません．是非この場所では，たばこを吸う人も吸わない人も同じ場所にいながら，いかに煙が分けられるかというチャレンジングな課題に取り組んでもらいたいと思います．

このコンペの課題は，今までもかなりチャレンジングな内容だったと思いますが，オフィス街という今まで設定されたことがなかった場所が，初めて課題になったことは，非常に意義の大きいことだと思います．

西沢　煙を分けることは大事なことですが，それだけを目的にしないようにしてほしいと思います．今回の課題はオフィス街のカフェですし，街と連続したカフェです．ですから働く人のアクティビティや，街行く人のアクティビティに，柔軟に応えられるようなカフェを提案してほしいです．

たとえば働く人のことを考えてみると，夜中まで働いている人もいるだろうし，フリータイムで働く人もいるでしょう．昔のように，皆が会社に自分の机を持っていて，制服を着て定時で働くという時代ではないですよね．働くというアクティビティにおいても自由度が増していて，働く場所や時間帯がどうであれ，成果が上がればよいという考え方が世の中に浸透しつつあります．

また街の人たちのアクティビティも，自由度や選択肢が増えています．昔はオフィス街に主婦や子どもが訪れるなんていうことはかなり稀なことだったと思いますが，最近では丸の内でさえオフィスの足下が開放されて飲食店が入ったり，おしゃれな店が入ることで，どんな人でもオフィス街へ自然と足を運ぶようになっています．

あるいはカフェそのものを考えても，昔はブレンドコーヒーしかなかったのに対して，今や飲料のバリエーションも増え，カフェラテ，カプチーノ，ペリエ等々の選択肢が増えていたりとか，あるいはサンドイッチや軽食，パスタやスイーツなども揃っています．コーヒーを飲みたい人だけがカフェに来る時代ではなくなっています．むしろちょっとした打ち合わせのためにカフェに行くとか，あるいはひとりで手紙を書くためにカフェに行くというように，いろんな目的のためにカフェが使われるようになっています．

今回のカフェの提案は，そういう現代的な状況を踏まえてほしいと思います．つまり，いろいろな仕事の仕方が選べるとか，いろいろな待ち合わせの仕方が選べるとか，いろいろな気分転換の仕方が選べるようになっていて，その選択肢のひとつとして，たばこを吸う人から吸わない人までが，どこかに居場所を見つけられる，そういうカフェを提案してほしいです．

座談会風景．左から六鹿氏，古谷氏，西沢氏，山下氏．／撮影：新建築社写真部

座談会・プロポーザル部門テーマ

オフィス街のリフレッシュスタイル――いかに煙を分けるか

設備と空間をパラレルに考える

古谷　もはやカフェの機能は，飲み物の提供を受けるというよりも，そのスペースと時間を買うような意識になってきていますね．

また，今回のコンペでより考えていただきたいのは，プランニングができるという点です．2007年に募集されたカフェ空間では，空間としては決められた場所への提案だったので，壁面は基本的に操作することができませんでした．しかし，今回は50m^{2}という床面積さえ守れば，提案エリア内のどこにどのようにプランを描いてもよいという設定になっています．もちろんそれと併せて，半屋外部分との繋がりをどう考えるかも重要になるでしょう．

空間に高さもあるので，プランニングと断面の操作を併せて考えることもできるかもしれないし，設備的な提案をそこに入れるにしても，できることの範囲は非常に広がっているのです．

是非幅広い提案を期待したいと思います．

六鹿　それにしても最近，たばこのにおいを感じる機会が少なくなりましたね．どんなオフィスビルに行ってもほとんど感じないし，たまに喫煙室に行ったらしき人とエレベータで同乗する時に感じるぐらいです．

古谷　最近，建築で香りを研究している先生がいます．昔は臭気工学のようなネガティブなものと捉えた対策を考えることが主流でしたが，今はもっとポジティブなにおいのあり方が研究されているようです．アロマだったり，木の香りだったり．かつて音が同じように音というと騒音だったり雑音だったり，ネガティブなものだったのが，サウンドスケープと位置付けられてさまざまな試みが展開されているのと同様に，アロマスケープとでも言うのでしょうか．においについても今後は空間と共に考えられることがありそうです．建築の空間性の中では，とても大切ですからね．

西沢　本当にそうですよね．

山下　今回の想定はカフェということですが，コーヒーとたばこは切っても切り離せない関係にあるところがあります．一方で，たばこを吸う空間に求められる煙を分ける点をどう考えるか．これらの点を考慮して，どのように新しいカフェを提案してもらえるのかを楽しみにしています．

また，できればこのオフィスビルで働く人たちだけのカフェではなく，この街のランドスケープにもなるような，そんなカフェでもあってほしいと思っています．今回は自由度のある設計ができる設定だと思いますので，その辺についても是非ご検討いただきたいです．

――　審査委員の方々が話されているように，今年は自由度が高いぶん，想像力が問われるコンペになると思います．しかし，だからこそ建築家としての本分を発揮していただける場となるのではないでしょうか．

応募者の皆様の発想に期待し，たくさんのご応募をお待ちしています．

（2010年9月7日，日本たばこ産業本社ビルにて　文責：本誌編集部）

応募期間　2010年10月1日（金）～2011年1月20日（木）